

10月上旬

ソラマメの栽培

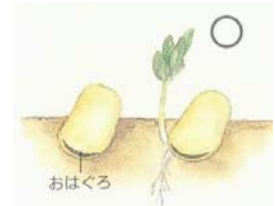
1 作型と品種

(○播種 △定植 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
普通栽培	-----□□ ○--△-----											河内一寸 芭蕉成一寸、打越一寸	

2 栽培上の注意点

- ① 適期にたねまき（10月10日～15日）をし、植え付け時期の 植え傷を防ぐ。
- ② 寒くなるまでに十分根を張らせる。また、栽植間隔を広くし、日当たり、風通しを良くする。
- ③ 2年以上の輪作をする。



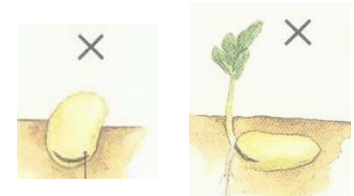
3 うねづくり・本田肥料

定植の15日前に、完熟堆肥3kg/m²とセルカ120g/m²、元肥として化成肥料（14・10・10）70～80g/m²、総合ミネラル補給肥料40g/m²を全面に施し、耕耘後、畝幅120cmに整地する。

4 たねまき・苗づくり

3寸ポットに、おはぐろを下にして1粒まきし、灌水後新聞紙で覆う。

たねの向きが変わると、発芽が不揃いになるので注意する。



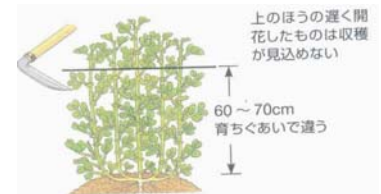
5 定 植

本葉2枚の苗を株間40～50cmで1条に植える。

6 追肥・中耕・土寄せ

追肥は2月中旬と3月中旬に、野菜専用化成（15・15・10）20g/m²を1回あたり施用する。

1月中旬に中耕除草を行う。草丈が伸長する頃（3月中旬の追肥時）に、倒伏を防ぐため、中耕除草を兼ねて土寄せを行い、谷を深くさらえて排水を良くしておく。



7 整枝・摘芯

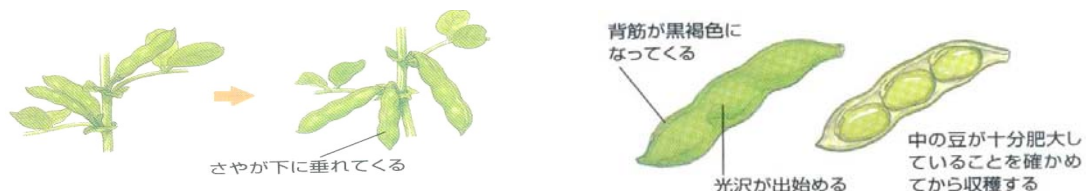
各枝が1～2節開花し、芯止まりのないことを確認した後に整枝を行う。1株あたりの仕立て本数は3～4本にする。作業は晴れた日に行う。目標の葉数、さや数が確保されたら摘芯する。

目標の葉数は1さやあたり1～1.5枚、さや数は1枝あたり5～15さや。

茎が伸びすぎて倒れるようであれば、上20cm程を切り捨ててもよい。

8 収 穫

さやの背筋が黒褐色になり、光沢が出始めサヤが下に垂れ下がった頃が収穫適期です。さやが斜め上に向いているのは、まだ未熟です。



10月中旬

エンドウの栽培

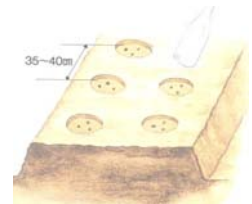
1 作型と品種

(○播種 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
普通栽培	-----□□□□ ○-----											ウスイ・白竜（実取） キヌサヤ・オランダ [®] （莢取） スナック	

2 栽培上の注意点

- ① 水はけ、日当たりのよいほ場で、中性に近い土壌が適する。
- ② いや地現象が強く5～6年間は豆類を作らない。
- ③ 畝幅、株間を十分取ることが良い物を多く穫ることにつながる。
- ④ 実取り種は粗食にすることが大切です。
- ⑤ 親づると子づるとによく実を付けるので、孫づるとは早めに切り取る。



3 うねづくり・本田肥料

種まきの15日前に、完熟堆肥3kg/m²とセルカ150g/m²、元肥として化成肥料(14・10・10)70g/m²、総合ミネラル補給肥料40g/m²を全面に施し、耕耘後、畝幅120～150cmに整地する。

4 たねまき・間引き

1条で株間35～50cmの1カ所3～4粒の点まきし、2cm程度の覆土後、鎮圧して切りわらを散布する。(覆土が浅いと根が浮き上がったり、種皮を被ったまま発芽する)

間引きは、草丈が7～8cmになったら、1カ所2本にする。春先に株元より多くのつるが発生するので、1カ所6本程度に整枝する。

また、残したつるの下部(5節以下)より発生する側枝(孫づると)は早めに摘除する。



5 追肥・土寄せ・支柱立て

追肥は開花始め頃から2回ほど、野菜専用化成(15・15・10)30g/m²を1回あたり施用する。

年内と2月中旬の2回中耕、追肥後土寄せをする。

支柱はつるの伸び始めまでに、長さ2m程のものを2m間隔に直立に立て、最上段に針金を張り、その下は40cm毎にビニールテープを張り竹の枝などを立てかける。

また、つるが大きくなり始めると折れやすくなるので、ビニールテープで誘引しつる折れを防ぐ。

6 収 穫

莢穫りは取り遅れないようにしないと、莢の筋が固くなります。実取りも取り遅れると、実が固くなります。早めに収穫することを進めます。

